

全国公害研協議会昭和57年度秋季総会 シンポジウム（記録）



（カット写真） 全国公害研協議会シンポジウムの情景（於宮崎市）

第23回大気汚染学会が昭和57年11月9、10、11日の3日間、宮崎市のサンホテルフェニックスにおいて開催されたが、全国公害研協議会では、その前日の8日13時より、同ホテルで昭和57年度秋季総会を開催した。特に14時から17時まで「大気汚染行政と地方公害研活動」と題したシンポジウムが行われた。第23回大気汚染学会会長常俊義三教授の祝詞、渡辺弘全公研会長のあいさつのあと、各演者の講演ならびに熱心な討論があった。

ここに概要を記して、今後の参考に供したい。

テーマと演者

〈全公研秋季総会シンポジウム〉
—大気汚染行政と地方公害研活動—

日 時 昭和57年11月8日(月)

場 所 サンホテル・フェニックス

（宮崎市塩路浜山3083）

座長 寺部 本次（川崎市公害研究所長）

- 1) 地方公害研に期待するもの
演者 加藤 三郎(環境庁大気保全局大気規制課長)
- 2) 地方行政と大気汚染
演者 古賀 孝輔(福岡県衛生部環境整備局公害課長)
- 3) 広域調査における地方公害研の活動
演者 氷見 康二(神奈川県公害センター所長)
- 4) 環境情報の蓄積と解析
演者 広崎 昭太(国立公害研究所環境情報部情報調査室長)

司会者のことば（寺部 本次）

地方公害研とは。そのあり方、役割、過去の実績、現状、今後に期待される、いや、しなくてはならない活動などについて、過去に多くの議論がされているが、なお、新しい今日的課題である。

今回「大気汚染行政と地方公害研活動」というテーマを中心に、各演者から、それぞれの観点から、卒直なお話、ご意見を承り、皆様と活発な論議を進めて参りたいと思います。

本日、この宮崎市における総会シンポジウムが、地方公害研の今後の活動に一層の活力をもたらす泉の一つになればと、念願しているものであります。

（メ モ）

1. 大気汚染学会3カ年における全公研関係の提出演題は、1980年148件(35.7%)、1981年127件(31.1%)、1982年125件(29.6%)
1982年の演題125の内訳；大気汚染実態（地域汚染）56、ガス状物質21、粒子状物質21、気象・拡散6、生体影響2、植物影響3、発生源、防止技術、予測16
2. 全公研職員総数2,379名のうち、大気・悪臭関係523名(22.0%)
3. 技術職の専攻別内訳：医学38(2%)、薬学383(20.3%)、理学433(23.0%)、工学573(30.5%)、農学304(16.1%)、その他153(8.1%)、計1,884

地方公害研に期待するもの (演者：加藤 三郎)

①地方公害研が自家発電をもったサーチライトであってほしい。たとえ、財政不如意の時代でも、コンセントを切られないサーチライトでヤミの中の危険物をてらし出す能力と環境哲学をもってほしい。②大気汚染対策で外国から、技術者の派遣を求められるケースが増大している。地方公害研のベテラン職員の協力を望みたい。という二点に重点がおかれ、感銘深い講演であった。

(講演内容は別記のとおり)

地方行政と大気汚染 (演者：古賀 孝輔)

福岡県で大気汚染はじめ、公害行政に多年の経験を有する演者から福岡県における大気汚染対策の概要と、あわせて当面する課題についてのべられた。昭和49年度から昭和56年度までの8年間における県衛生公害センターが行った大気汚染に関する調査研究の発表件数85件(学会研究会58, 報文27)の照会のあと、当面する課題として次の事項をあげられた。これは全国の共通的なものと考えられる。

- 1) 監視測定局の管理運営(維持管理費の軽減等の検討)

昭和56年度において1監視測定局当り、年間約300万円～350万円の支出が見込まれ、今後、さらに増額が予想される。
- 2) 調査、研究の推進
 - (1) 監視測定局の適正配置及び地域汚染の解析に関する調査、研究
 - (2) 光化学オキシダント及び浮遊粒子状物質に関する汚染機構の解明とその対策の検討
 - (3) 石炭利用拡大及び液体燃料の重質化に伴う大気質の変化に関する調査、研究
 - (4) B(a)P, あるいはニトロピレン等の癌原性物質または、水銀等微量有害物質の検索に関する調査、研究
 - (5) 大気汚染に関する環境情報システムの開発と情報の交換

広域調査における地方公害研の活動

(演者：氷見 康二)

講演内容は次の7項にわたり、特に20年余にわたる京浜工業地帯の大気汚染調査研究の経験を織りこんだ意義の深いものであった。

- (1) 大気汚染問題の提起と地方試験研究機関の対応
- (2) 大気汚染の広域化と地方公害研の発足、その問題点
- (3) 光化学大気汚染対策と広域調査
- (4) SO_x, NO_x 総量規制と地方公害研、その計画と実施のために

- (5) 酸性雨と地方公害研による広域調査
- (6) 大気汚染物質発生量総合調査と地方公害研
- (7) 地方公害研の今後の課題

なお、氷見：環境保全対策と調査研究、全国公害研究会誌6(2), 39—51, 1981は関連文献として注目される。

環境情報の蓄積と解析 (演者：広崎 昭太)

講演の内容は次の各項の通りで、国及び地方におけるデータ処理、特にサンプリングやデータの保存処理について有意義な、しかも広範囲なお話があった。

1. 環境情報の分類
 - 1.1 形態による分類

数値情報、画像情報、文献情報、情報源情報
 - 1.2 内容による分類

発生源、環境の状態、被害、対策
2. 環境情報の特徴
 - 2.1 構造

多次元時系列
 - 2.2 欠測値・異常値
 - 2.3 比較可能性

測定法、サンプリング法の標準化
 - 2.4 要約方法

データ構造、要約の目的により異なる
3. 環境情報の整理
 - 3.1 原データの保存

2.2, 2.3, 2.4との関係
 - 3.2 属性情報

測定条件の記録、比較可能性の検討
 - 3.3 大気環境データの保存形式例

国立公害研究所における大気環境データの記録方式
4. 環境情報の解析
 - 4.1 解析用データセットの作成

3次元構造→2次元に整理
 - 4.2 視角による特徴の把握

グラフ—色彩の利用

並べかえによる規則性の発見
 - 4.3 会話型式による特徴抽出

正規分布への近似、異常値検出
 - 4.4 解析例

大気環境データの測定精度、局内、局間相関、会話形式による解析

以上記して、各演者の先生、学会関係者、全公研役員および出席者一同のご協力に感謝いたします。

(寺 部 記)